

平成 22 年 1 月 16 日

北関東フォーラム

於：シムックス

## 中齋塾 北関東フォーラム

### 平成 22 年 第 1 回講話

明けましておめでとうございます。よろしくお願い致します。

今年からお話させて戴くスタイルを少し変えようと思っています。今日始めて来られた方、又、普段から氣になっていることを聞きたいと思っている方、始まる前にそういう情報をお知らせ戴ければ、若干その日の話の中に取り入れたいと思っています。

今日は、「社長交代をしたばかりです」と挨拶をされた方がおられましたので、社長としての心構えについて、考えていることを若干触れてみようと思います。

毎回、嘘をついたかどうかの質問は続けて参ります。

#### 腹六分目

新しい方もおられるので、この会の基本「知足」について、最初に少し申します。

今朝、私は都内のビジネスホテルで朝食をとりまして、知足を考えさせられる光景を見ました。隣のテーブルに八十代のお婆さんが座っておりました。バイキングの朝食なのですが、山盛りに盛ったお皿の食事にほとんど手がついていませんでした。これを知足で考えますと、そのお婆さんは目で食べたいと思って、色々なおかずを皿によそったのでしょう。ほどほどということが分からないからでしょう。結果として食べきれずに残してしまった。「これはもったいないことをしたな」という気持ちがお婆さんにあれば、この次は多分少なめに盛るのでしょう。しかし何度かそういう場面を見ていますので、あれだけのお年になっても、ほどほどの分量をとってほどほどの食べ物をお腹に入れるのだということが分からないのかなと思いました。

翻って自分自身を反省すると、最初は山盛りに乗せて沢山食べていました。その後は腹八分目、今は腹七分目で止めています。もっと食べたいなと思いますが、食後 30 分位すると、まだ食べたものが身体に残っていて重たく感じる場合があります。今年は、腹六分にしました。そうすると食事中も食後も、その次の食事までの間、何となく空腹感があります。人間というのはずっと空腹の状態でいた方がどうも良さそうで、どこかに餌があるとなった時に敏捷に動けます。

### 三つの質問

では、恒例の質問を致します。

昨日一日、嘘をつかなかった方？

(・・・沢山手が挙がる)

嘘をつかないというのは良いことです。目覚めが気持ち良いと思います。小沢さんや鳩山さんは、すっきりと起きられないと思います。又、今日も叩かれるのかなとか、又、嘘をつかなきゃならないのかなと思いつつ過ごしているのではないのでしょうか。可愛そうですね。

昨日一日、良い一日だったと思った方？

手の上らない方が若干おられますが、良い事と悪い事を比較しない方が良いです。良い事が一つでもあれば、それで一日良しとするといいですね。

昨日一日、有難うと言ひ有難うと言われた方？

(・・・沢山手が挙がる)

「有難う」と言われたというところがポイントです。

この三つの質問を考えながら、一日過ごされると良いと思っています。

### 紹介書籍 「カレント」

今日紹介する書籍は「カレント」という月刊誌です。

今月号から半年書かせて戴くことになりました。中身をご覧戴くと、良い書き手が沢山いらっしゃいます。衆参両院の議員全員に配布しているということですので、かなりの政治家が見ています。せつかく政治家が見るのですから、ちょっと耳が痛いようなことを書こうと思って書きました。同時に、日本の国がどういう状況にあるか、どれほどの長期展望で本質・大局・歴史の側面から見ている政治家がいるのか、自分なりに判定して貰いたいというものも含めたつもりでいます。どうぞゆっくりお読み下さい。

### 論語の中に現代を見る

今月から講話のスタイルを変えると申しましたのは、論語をベースにしながら現代を織り交ぜて話をするように致します。本日の論語の素読は、公冶長第五 1~6 です。

【一】 子 公治長を謂う。妻あわすべきなり。縲綯の中に在りと雖も、その罪に非ざるなりと。其の子を以て之に妻あわす。子 南容を謂う。邦道あるときは靡られず。邦道無きときは刑戮に免ると。其の兄の子を以て、之に妻あわす。

孔子が公治長を評して言いました。

「公治長は娘を嫁にやってもよい人物である。牢獄に繋がれていたけれども、それは無実の罪である。無実の罪で牢獄に入ったけれども、鳥の言葉を解すという特別な能力を持っているし、人柄も良い。だから自分の娘を嫁にやろうではないか」

無実の罪というのは、人が死んでいるとお喋りしている鳥の言葉を公治長が理解して、それをその母親に伝えたので、殺人犯の嫌疑がかかり牢獄に入ったというものです。

次に同じく孔子の弟子である南容について言いました。

「南容はその国に道徳が行き渡っていて秩序がきちんとしている時には、それなりに登用されるし、国が乱れている時には、逮捕されて罰せられることはないだろう。一生間違いないから自分の兄の娘を嫁にやってもよからう」

今でも政治家の娘と金持ちの息子が結婚するという話はよくありますね。余程考えないと、子供は苦勞するだろうと思います。親が偉すぎると子供は大変だと思います。

皆さんも娘さんがおられれば、嫁にやる時にお金持ちだから選ぶのか、人柄が良いから選ぶのか、無難に問題なく一生を過ごせるから選ぶのか、そこらへんの判断基準をお持ちになるとよいでしょう。孔子は結婚についても人物本位でした。

【二】 子 子賤を謂う。君子なるかな、若き人。魯に君子者無かりせば、斯れ焉んぞ斯れを取らんと。

孔子が子賤を批評して言いました。

「子賤は君子である。魯に君子がいらないとするならば、どうして子賤は徳を身につけたのだろうか。」

こういう人間は魯の国に沢山いるはずだ。だからこそ子賤が君子としての徳をこれだけ積むことができたのだ。お手本がいなければ、人間それほど上達しないということです。

私が教えて戴いた石川梅次郎先生は、「深澤君、師匠は死ぬものだよ」とおっしゃっていました。だから自分と同じくらいの力量を持った仲間を作っておきなさいということで

す。皆さんもこの会の中で、その人の全部をお手本にするというのは難しいと思いますが、見習いたくなるような部分を見出して、お手本になる方と話を進められるのがよろしいと思います。

【三】 子貢問いて曰く、賜や何如と。子曰く、女は器なりと。曰く、何の器ぞやと。曰く、瑚璉なりと。

子貢が、「私はどうでしょうか。批評して下さい」と孔子に尋ねました。

孔子が「お前は器である」と言いました。

孔子は「君子は器ならず」(大人物は、一つの器のように限定されるようなものではない)と言っていますから、子貢は、私は君子ではないのかとがっかりして、

「では、何の器ですか」と聞きました。

孔子が「瑚璉である」と答えました。

瑚璉とは、祖先の霊を祀る時の祭儀の時に使う重要な器です。重要な部分を任せられている人物だと言っているわけです。孔子も少しお世辞を言っているのでしょう。

先ほど新しい会員さんが挨拶をされました。社長になったばかりで、どういう社長になればよいか分からないというお話でした。器物ということで考えますと、営業なら営業の専門家であるとか、経理なら経理の専門家とか、一つ一つの専門家になってしまうと、全体を見る目が曇ってきます。

社長としての心構えを5つ考えましたのでご紹介します。

#### 1、これだけは人に負けないというものを持つ

例えば一番早くに会社を出社して、一番遅く退社する。私は以前、営業一日300件という目標を自分に課して、実際にしました。やってみせる事が肝心です。そして金繰りです。お金がない時には、何としてでも作る。社長としての力量を問われるところだと思います。

#### 2、社員の給料は約束した通りに必ず払う

会社を創業した時に、ある人から、「給料は女房を質に置いても必ず払え」とアドバイスされました。給料は遅配しないということも肝に銘じて、仕事をして参りました。

#### 3、ビジョンを明確にする

こういう会社にしたいという夢を持つ。10年後の夢、20年後の夢を書いて、社員に徹底させると良いでしょう。

#### 4、見識を得る

自分自身の知識を増やし、国内外の動向を把握するように努力する。国内の政治・経済・社会を常に見続け、国際社会との関連も見続ける。これは自分の見識を持たないとなかなか見抜けない場合もありますが、出来る限り日本の国内外の状況を常に捉えるようにしておくことです。

#### 5、自分自身の哲学を持つ

これがなければ社長失格です。自分自身の人生哲学を持つと、自然と会社の経営理念が生まれます。哲学がなければ、会社は簡単に消滅すると思っています。雪印がよい例ですが、哲学が社員にきちんと伝わっていない、次の社長、次の社長へと繋がっていかなければ、その会社は消滅します。私はそれを、「嘘をつくな」「約束を守れ」「次の人を作れ」という簡単な言葉で、社内に徹底しておりました。

以上のような資質を持っていれば、その時々に応じてアドバイスや指示指導ができます。自分にそういうものがなくて空っぽだったら、リーダーシップを発揮できません。是非この5つを身につけるように努力されるとよいと思います。

【四】 ある いわ よう じん ねい 或ひと曰く、雍や仁なれども佞ならずと。しいわ いづく ねい もち ひと 子曰く、焉んぞ佞を用いん。人にあた こうきゅう もつ 禦るに口給を以てすれば、しばしばひと にく じん し いづく ねい もち 屢人に憎まる。その仁を知らず、焉んぞ佞を用いんと。

或る人が言いました。

「雍という人物は、人柄は良いけれども口下手だ。あれでは困りますね」

孔子が言いました。

「どうして口達者な人間を用いようとするのだ。人と応対する時に、よく口が回る人間を使えば、大概人に憎まれるものだ。雍が仁者であるかどうか知らないが、口達者が何になるというのだ」

口は災いの元と言います。余程氣をつけないければいけません。仁というものをベースにしている人は、結構さっぱりしています。口達者の人の場合は、後に清々しさが残るかどうかを一つの判断基準として、その人と付き合うとよろしいでしょう。

【五】 し しつちようかい 子漆雕開をして仕えしめんとす。つか 対えて曰く、こた いわ われ こ こ いま しん 吾斯れを之れ未だ信ずることあた し よろこ 能わずと。子説ぶ。

真面目によく勉強してレベルが一つ一つ上がって行って切磋琢磨してゆく人、こういう

努力型の方は、今はあまりいませんね。

孔子が漆雕開に「そろそろお前はどこかに仕えたらどうだ？」と言いました。

漆雕開が、「自分はまだ勉強が足りません。今はまだ、勤めるだけの実力が不足しています」と答えたところ、孔子は喜んだという話です。

小沢さんの政治資金虚偽記載問題について、元秘書だった石川議員のところ一年間私設秘書で入った人が、今回の内容を暴露しているという報道があります。本人は一年間政治家の私設秘書をしたのだから、民主党で公認をもらえると思っていた。しかし公認が貰えなかったので暴露しているようですが、この論語の文章を読んで欲しいと思います。

【六】 子曰く、道行われずんば、桴に乗りて海に浮ばん。我に従わん者は、其れ由かと。子路之を聞きて喜ぶ。子曰く、由や勇を好むこと我に過ぎたり。取り材る所無からんと。

孔子がお弟子さん達に言いました。

「自分の主張している徳の道が世の中に受け入れられなければ、筏に乗って海の上に浮んでいたいねえ。その時自分について来る者は、子路しかいないのかなあ」

子路はこれを聞いて喜んだので、孔子が言いました。

「お前の勇敢なことは私以上だ。しかしお前は、頭が足りない。海に小さな舟で出てごらん。すぐにひっくり返ってしまうではないか」

子路タイプの方は結構いるのではないのでしょうか。さっぱりした竹を割ったような気性で、実に気持ちが良い。ところがあまり考えない。最後の落とし所まで考えないで行動するのは、良い結果になりません。こういうタイプの人と付き合うとしたら、その人の言動の最後の所まで見抜いて行動するとよいでしょう。

### 常に疑問を持つ

世の中に溢れている情報は、とかく眉唾が多いと感じます。テレビの報道や新聞に書かれているものを全部素直に受け止めるのは怖いと思います。

一例を申しますと、派遣村があります。今年は公設派遣村という名称になっていますが、解散する時に二百数十名の行方不明者が出たという報道がありました。素直に聞いている

と、そのいなくなった人達は、きちんと寝泊りできる場所や食事を用意してもらっているのに何と恩知らずな！ と感じる報道でした。しかし中身を聞いて驚きました。二百数十名という人員は、晩御飯に間に合わなかった人の数だそうです。翌朝、本来いるべき人が宿泊していなかったのは40名だそうです。その中でも、就職活動をしていますから、熱心な人は朝ごはんを待たずに出掛けてしまっているわけです。行方不明者二百数十名というのは悪意に満ちた報道であった、というのが内部の人達の話です。受け手は自分の常識で判断しますから、前提になるニュースがどこまで正確に事実を伝えているか、事実をきちんとみなければ怖いと思いました。

元航空幕僚長の田母神さんが民間の懸賞論文で最優秀賞となり、話題になりました。その方の話が書かれたものを読んで、氣になった所を申します。田母神さんは今年の8月6日、広島原爆慰霊祭に招待されて行ったのだそうです。12,000席が用意されている中で、大半は日当を貰って出てきている全国の左翼の人達だったとありました。地元の人や関係団体の人達はごく少数で、その人達をテレビカメラが映していたそうです。これはあり得ると感じました。

新聞やテレビ等で色々な情報が流れますが、どこまで本当かなと思ってみる癖をつけていないと怖いと感じます。事実関係は半分だと思った方が良くと思います。そのままストレートに、素直に聞くというのは怖い。少しでもおかしいなと感じたら、調べる癖をつけると良くと思います。今はネット等で調べる手法にはこと欠きません。ただ、常に疑問を持つという習慣をつけると良く感じています。どうしてこういう事が起きたのか、それは何故か、何故・何故・・・と追求していくと、最後に何かカチンとしたコアのようなものが見つかります。そこまで追求すると良く思います。

### **亀の甲羅を厚くする年**

今年の季刊誌「知足」1月1日号を、再度読み直して戴くようお願いしておきます。その中には「今年一年間は、こういう酷い年になります」という内容を書きました。それを踏まえて、今年の、干支から予測する一年を聞いて戴きたいと思います。

今年は庚寅（こういん・かのえとら）です。「庚」は3つ意味があります。昨年のをそのまま継続する。その中の問題点を発見して償い改める。その中から新しい良い芽を生み出して進んでいく。これは安岡正篤先生の干支に関する書物の中に書いてあります。「寅」は、謹んで協力し合って前に進んでいくという意味です。

よく解釈すれば、昨年の問題を反省し償いをした上で、新しいものを皆で協力し合って

進んでいく、良い年だということになります。そうなって欲しいという巡り合わせであるけれども、現実にはそうはならないと思っています。前回は申しましたように、「大人虎変し、君子豹変す」のように、総理大臣が虎変しない限り良くはならない。今年は鳩山政権がいつ潰れるか、次の人にいつ替わるかというところが一つの焦点だと思いますし、小沢さんがいつ失脚するかが大きなポイントだと思います。

自民党は今年一年をみると、ずっと浮かび上がらないままです。足の引っ張り合いをしていますから、悪くすれば分裂すると思います。私は分裂した方が良くと思っています。民主党も政権与党になってしまうと、なかなか分裂できない状況になるでしょう。小沢さんが失脚して、鳩山さんも引退となると、次は菅さんが出てくるでしょうが、次の参院選で民主党が勝つはずがありません。ですから民主党は勢力が衰え、自民党は更に凋落します。ということは、第三の芽がどこからか生まれてくると思います。今のところ、みんなの党という政党が出来ていますが、全部吸収するだけの力はありません。そうすると政界は四分五裂という状況です。

干支学から 60 年周期で見ると、昭和 25 年は新しい政党が出来たり政党の名前が変わったり解散もあって、政界が揺れ動いた年でした。ですから今年も同じように、政界は順調に行くことはあり得ない。第三の芽が生まれる為の混乱の年である。政界が混乱している時に、経済が順調にいくわけがない。群馬県の収入が 1800 億円台になったのは 21 年ぶりであると今朝の上毛新聞に出ていました。凄まじい減収です。

今年は政治・経済・社会すべてが混乱し、不安・不信の極みが続くと思います。凸凹道が更に酷くなります。私は今年の年賀状にも書きましたが、今年は甲羅を磨いて丈夫なものにしておく年だと思っています。来年はもっと酷いことになります。今年の暮れには「来年は今年の比ではありません。もっと酷くなります」とお話しするつもりでいます。どのように酷くなるかは、多分中国の状況によって、日本への波及はここまで来るだろうというものが見えてくると思います。

本日の講話はこれにて終了に致します。どうぞ今年一年、よろしくお願い致します。